

校長室だより

No. 24

平成28年10月21日(金)

## 強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとう よし かず  
加 藤 嘉 一

### 間（ま） ー今年の学芸会で子供たちに願うことー

先週の木曜・金曜に学芸会下見の会を行いました。子供たちの様子を見て、少し安心しました。劇や音楽に、とてもやる気に満ちていたからです。

この下見の会のときには、演技が終わった後に、毎年わたしから子供たちへ感想をコメントします。今年、子供たちに共通して話したことは、間（ま）についてです。

この学芸会の意義について、昨年度「本や音楽の原作を頭でとらえるだけでなく、身体でどう表現するか」を大切にしたいと述べました。その思いは変わりません。今年は、より具体的にこのことを深く考えてほしいと思い、「自分のせりふを言う前はどのくらいの間がよいか」を考える注文をすることに決めていました。音楽でも、演奏の出だしや休符のとり方、「ため」、空白の部分の扱い方です。下見の会の演技や演奏も、その視点で見っていました。



どのくらいの間を取るかを考えることで、その場面の状況を深く考えないといけなくなります。また、間のあけ方をいろいろ試すことで、その効果（うれしさや悲しさ、重々しさなど）を自分で感じるすることができます。見ている人へどう伝えるか、「このくらいの間で・・・」と考えてもうまく表現できていないものです。

小さい学年の子たちは、せりふにしても演奏にしても、前の子が終わると、すぐに自分の番の役割を果たそうとがんばってくれます。それだけで立派ではありますが、そのままだとたいい単調になります。

今回の下見の会では、低学年の子たちであれば、

『「そうだ！……」のせりふの前は、みんなが困って悩んでいたところだね。るるの会の人なら、絵本でどうやって読むと思う？研究してね。』

など、上手な読み聞かせを思い出して自分で考えるようにとコメントしました。演奏部分で言えば、

『「〇〇」という曲は、はじめの元気のいい曲と違って、不安な気持ちを表現する曲だね。出だしや発声の仕方はどんな出し方がいい？先生と一緒に考えてね。』

などと話しています。高学年であれば、

「AさんとBさんは、次から次へとせりふをかぶせるところが上手だね。逆にゆっくり間を取ることで状況がよくわかる場面もあるんじゃないかな。」

などを話しています。

間を考えることを通して、劇や音楽を深く考え、効果的に表現するにはどうするとよいか、一生懸命考える学びをしてほしいと願っています。

### 御厚意に感謝 ーおかざきっ子展搬入・搬出ー



53年の歴史を誇る野外展「おかざきっ子展」。今年は、搬入・搬出・飾り付け等に、PTA 役員・委員・「ちゅらぼ」の方、総勢 32 人に御協力いただくことになりました。本当にありがとうございます。今年は、本校の展示場所が狭い道を通って行かなければならないため、軽トラックが複数台必要になりました。

御厚意で軽トラックを出していただけた方もありました。本当に感謝です。

### 学習環境をつくるⅢ ー先生方のしかけと努力ー

3週に引き続き、学習環境づくりの御紹介です。

昨年から気になっていたことの一つに、子供の体力がどうであるかがありました。昨年と今年の5・6年生の体力テストの結果は、もちろん学年によりよくできているところと、伸ばしたいところの結果が違ってきます。そのなかで、2年連続で市の平均値より上回ったのがあり、男子の走力、女子



【体育館チャレンジジャンプコーナー

の柔軟性は優れています。すばらしことです。残念ながら下回っていたのは、立ち幅跳びの結果でした。跳躍力や瞬発力に課題があると自分は考えています。これは、PTA 保健部と子供とで合同で行った「学校保健委員会」の講師・山下晋先生（岡崎女子短期大学）からも、本校の子供の特性を県と比較し分析した結果、同じような傾向があることを御指摘いただきました。



昨年先生方は、授業で幅跳びやハードルの授業を充実することに心がけてくれていました。今年も高学年は、昨年に加え高跳びの授業の充実に取り組んでいます。これだけでなく、体育専門の石川駿先生は、体育館に写真のような教具を作ってくれました。体育館の上の手すりを利用し、ジャンプしてどの高さまで触れるかのコーナーです。まずは、お試し版で高学年向けの高さ設定をしたそうで、今後跳躍力が伸びるしかけを外でも作れるか思案中です。